

# 令和3年度（2021年度）経済環境常任委員会管内視察の概要

- 1 視察日 令和3年（2021年）10月12日（火）
- 2 視察者 経済環境常任委員会（6名）  
松村秀逸（委員長）、大平雄一（副委員長）、松田三郎、  
鎌田聡、西村尚武、坂梨剛昭

## 3 視察の概要

### （1）熊本県産業技術センター

熊本県産業技術センターは、産業技術及び農林水産物の加工に関する研究開発、指導及び支援並びに適正な計量の実施の確保を行い、県内産業の振興を図ることを目的として熊本県が設置した技術支援機関である。

昨年の令和2年7月豪雨災害においては、人吉市の焼酎酒造元や味噌醤油蔵元の麴室が使用できなくなった際に、酵母の保存支援を行うなど、その支援内容は多岐にわたる。

今回の視察では、同センターによる技術支援の状況について説明を受けた。

同センターからは、県内企業からの技術相談等に対する支援、企業や大学との共同研究等を通じた課題の解消等の取組を行っているほか、産学官連携として、大学や高専との協働、農商工連携、医商工連携などによる熊本型イノベーションの創出に取り組んでいるとの説明があった。



### （2）合資会社大和一酒造元

合資会社大和一酒造元は、明治31年創業の球磨焼酎の蔵元で、令和2年7月豪雨災害では、タンクが倒れて原酒が流出するほか、焼酎造りに欠かせない明治期から続く麴室が使用できなくなるなどの甚大な被害を受けている。

今回の視察では、令和2年7月豪雨からの復旧状況及び今後の球磨焼酎の販路拡大の取組について説明を受けた。

同社社長からは、先の見えない中、多くの人の協力が前に進む力となった、仮復旧して出荷体制を整えてもコロナ禍に市場が影響を受ける大変さはあるが、恩返しをする気持ちで頑張っていきたいとの説明があった。



### (3) HASSENNBA HITOYOSHI KUMAGAWA

HASSENNBA HITOYOSHI KUMAGAWAは、令和2年7月豪雨災害にて大きな被害を受けた球磨川くだり株式会社の人吉発船場であり、熊本県なりわい再建支援補助金を活用し、令和3年7月に、ツアーデスク、カフェ、ショップの機能を兼ね備えた新たな観光拠点施設として整備されている。

今回の視察では、令和2年7月豪雨からの復旧状況及び改修された新たな施設について説明を受けた。

同社藤山氏からは、人吉球磨の新しい魅力を発見する場、発信する場、発展させる場との3つのテーマを掲げて、従来からの球磨川下りとラフティングに加えて、サイクリングツアー、九州パンケーキカフェ、物販の人吉球磨ストアなどの新規事業を始めている、球磨川下りはいまだ再開できていないが、再開に向けて、関係者と協議を進めていきたいとの説明があった。



### (4) 人吉市七日町周辺公費解体現場

令和2年7月豪雨で被災した半壊以上の家屋等について、被災者の生活再建や二次被害の発生を防止するため、市町村による解体撤去（公費解体）が行われている。

今回の視察では、人吉市での公費解体の取組について説明を受けた。

県の担当課からは、発災後1年半となる令和3年12月を完了目標としつつも、被災者の方に寄り添い、個別の事情や建物の状況に配慮した対応となるように市町村に取り組んでいただいているとの説明があった。

### (5) モゾカタウン

モゾカタウンは、令和2年7月豪雨災害の被災事業者を支援するため、人吉市が中小機構の助成を受け整備した仮設商店街であり、本県も看板の設置費用や支障物の撤去費用等を支援している。

今回の視察では、市役所内に設置されているモゾカタウン事務局から、仮設商店街の現状について説明を受けた。

人吉市の事務局担当からは、現在、仮設商店街で23店舗が復興に向けて取り組まれている、飲食店が多く、お昼の時間は非常に活気溢れるスポットになっているとの説明があった。



(6) 織月酒造株式会社

織月酒造株式会社は、明治36年創業の球磨焼酎の蔵元であり、令和2年7月豪雨では、地下タンクや充填ライン等が被災したが、現在は被災前の出荷体制まで復旧している。

平成30年（2018年）から米国の会社と共同で米国市場向けの商品開発に取り組んでおり、令和3年には初回生産分の商品が輸出されている。

今回の視察では、米国向けの新商品開発やこれまでの球磨焼酎輸出に向けた取組について説明を受けた。

同社社長からは、十数年前から輸出事業に取り組み、展示会への出展や地道な営業活動を続ける中、人の縁がつながって、今回のMUJENという米国向けの商品開発に至った、まだまだこれからではあるが、米国人が米国人に対して焼酎の販売や魅力発信を行うというこれまでとは異なる展開に期待しているとの説明があった。

